

平成30年度 第1回 大和郡山市総合教育会議

① 開催日時

平成30年9月25日（火） 午後3時10分～午後4時00分

② 開催場所

大和郡山市役所 4階 404会議室（教育委員会室）

③ 出席者

上田清市長、谷垣康教育長、藤本眞喜子教育長職務代理者、福本宜男教育委員、
牧浦温代教育委員、菊岡洋之教育委員

以上6名

事務局12名

④ 傍聴人数

0名

⑤ 次第

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 出席者紹介
4. 平成30年度 主要政策について
5. 学校園の現状について
6. その他
7. 閉会

⑥ 議事

○事務局 皆様、本日は御出席いただきありがとうございます。これより平成30年度第1回大和郡山市総合教育会議を開催させていただきます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます総務部企画政策課長の榎並でございます。

どうぞよろしく願いいたします。

それでは、最初に上田市長から開会の挨拶をお願いします。

○上田市長 皆さん、こんにちは。

最近、本屋で「植物はなぜ動かないのか」という題名の本に出会いました。これは、先日、武蔵野美術大学の学生が、材料から器まで全て自分たちでつくることにチャレンジする「カレーライスを一から作る」という映画を見たのですが、その中で、関野さんという指導者が「人間には命があって、動物にも植物にも命がある。それを食べなきゃ生きていけない。」ということをおっしゃられました。それが心に残っていたのか「植物はなぜ動かないか」というタイトルに引かれたんです。

この本には、いい話が沢山あって、例えば、リンネという学者が植物の分類をしたんですが、分類の綱や目、科などはラテン語なんです。なぜ、ラテン語にしたかというところ、ラテン語は誰も使っていない。誰も使っていないから、世界中の人間にフェアであるということ。もう一つは、誰も使っていないので変化しない言葉であるということ。長いスパンで物事を考えるという点が、すごいなと思ったわけです。

他には、「『学力』の経済学」という本を読んだのですが、よく子供は褒めて育てようと言われている件について、実験の結果によると、子供というのはテストの点数などのアウトプットを褒めるのではなく、本を何冊読んだとか、何時間勉強したというようなインプットを褒めることが大事であるということがわかったと書いてありました。

また、IQや学力テストで計る認知能力とは異なる非認知能力というのが大切だとも書いてありました。要するに忍耐力や社会性、自制心というような心の持ちようの部分で、その点が非常に大切だそうです。

様々な見方や考え方がある中で、教育とはどうあるべきか、時代とともにどんどん変わっていきますので、そういったことも含めて、いろいろと御指導いただければと思います。

本日は、よろしく申し上げます。

○事務局 ありがとうございます。

続きまして、本年度第1回目の総合教育会議でございますので、本日の出席者の御紹介をさせていただきます。

まず、上田市長でございます。教育委員会、谷垣教育長でございます。教育委員会教

育長職務代理者の藤本委員でございます。教育委員会教育委員の福本委員でございます。教育委員会教育委員の牧浦委員でございます。教育委員会教育委員の菊岡委員でございます。

次に、事務局の紹介をさせていただきます。総務部長の西尾でございます。企画政策課長補佐の笠原でございます。そして、私、先ほど申しました企画政策課長の榎並でございます。よろしくお願いいたします。

なお、先に定例教育委員会が開催されておりましたので、教育委員会事務局の職員の紹介は省略させていただきます。

最初に、本日の資料の確認をお願いいたします。まず、本日の次第、教育委員会主要政策一覧表、平成30年度長期欠席児童生徒状況調査、それと冊子の「先生のための支援ガイドブック」となっております。よろしいでしょうか。

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。

次第4の「平成30年度主要政策について」を事務局より説明させていただきます。

○事務局 それでは、「平成30年度主要政策について」を資料に沿って主なものを御説明申し上げます。配付資料を御覧願います。

学校施設につきましては、まず表の1番ですが、中学校では普通教室と専科の教室、152教室へエアコンを設置し、2学期より運用開始しております。エアコンの導入を契機として5中学校の生徒会に市長と懇談いただき、エアコンの設置が当たり前でないこと、感謝すること、大切に使うことなどの意見交換を行ったり、生徒会新聞の発行を行うなどの取り組みをしています。

2番ですが、小学校では平成31年度よりトイレの全面改修工事の実施に向けて、郡山南小学校の実施設計を行っております。和式から洋式への変更により、トイレブース数が減少することから、資料室を新たにトイレにすること、男女半々であったトイレ室を男子のみ、女子のみにするなどの配置変更を行っております。また、この夏の酷暑に対する今後の対応として、中学校に引き続き、31年度中に小学校へのエアコン設置を目指し、今年度、実施設計を行ってまいります。

3番ですが、幼稚園では平和認定こども園の建築に伴い、平和小学校南棟1階を平和幼稚園として運営が継続できるよう改修工事を行っております。去る9月18、19日の2日間、改修後の保育室を約25名の保護者に事前に見学いただいております。

4番ですが、学校規模適正化等審議会では、2年を目処に学校の規模や通学距離につ

いての基本方針の策定を目指して、2回、審議会を開催しております。一部の地区では、地区の学校がなくなるのではないかという高い関心のもと、多数傍聴に来られるといったことがございました。今回は、個別具体の学校についての議論ではなく、基本方針の策定であることを説明しております。

5番ですが、小・中学校に配置しているパソコンルームのパソコン計646台をリプレイスし、2学期から新たに稼働しております。今後、次期学習指導要領を見据え、大型モニターの設置、校内LANといった情報通信機器を利用した教育環境の整備に取り組んでまいります。

6番ですが、小学校4校、中学校4校にて、「こどもの学び」アイデアサポート事業を実施しております。子供の豊かな心を育成するための学校独自の取り組みを各校から募集し、小学校7校、中学校5校から応募がございました。今年度は、遠隔授業を取り入れた小・中連携を郡山東中学校区と郡山西中学校区で実施予定であり、情報通信機器を活用した学力向上を目指す授業づくりの取り組みなどに対して経費の補助を行っております。

8番ですが、特別支援教育支援員派遣事業につきましては、特別に配備を要する児童・生徒数の増加、必要な支援のあり方が多様化する中で、学校生活において介助や支援を行う支援員を配置しているもので、平成29年度は小学校11校に31名、中学校5校に7名を配置しております。

9番ですが、やまと郡山城ホール整備事業につきましては、開館から17年が経過し、館内設備の劣化が進んでいることから、舞台、音響、照明といった特殊設備の修繕を年次的に実施するとともに、一部じゅうたんの張りかえ等を実施するものでございます。

11番から14番の学校給食につきましては、衛生管理の徹底を図り、良質な食材の選定やメニューの工夫により、栄養豊富な給食の提供に努めております。大和郡山産や奈良県産の食材を使用した給食の提供といった地産地消事業、栄養士による食育指導、給食センターの社会見学等、給食を通じての食育推進事業、卵、乳、落花生の3品目の除去食、代替食を提供する食物アレルギー対応給食の提供といった取り組みを引き続き行うことにより、安全なおいしい給食を提供できるよう努めているものでございます。

また、給食費の徴収につきましては、国の動向に注視し、教育委員会による直接徴収

を行うよう準備を進めているものでございます。

15番から17番は、図書館活動についてでございます。

16番ですが、子ども読書活動推進事業、学校図書館支援事業では、2名の図書館司書により、郡山西中学校、東中学校の学校図書室の蔵書点検、データ整理、あるいは各校の開設支援、授業での図書室の利用支援などといった活動を行っております。

以上、簡単でございますが、私のほうからは以上でございます。よろしく申し上げます。

○事務局 ただいま事務局より、次第4につきまして各課の事業の説明をさせていただきました。これに関しまして、各委員の皆様から何か御意見等ございませんでしょうか。

○上田市長 エアコンの件ですが、この1年間で、これほど状況が劇的に変わると思わなかったです。盛んに言われているのが、奈良県は、なぜ設置率が低いのかと。実情を申しますとそういう要望が少なかったんですね、奈良県の場合は。猛暑だったのは前回、平成22年だそうですが、ちょうど郡山は小・中学校の耐震化工事を一斉にやっていた時期です。

○事務局 当時からエアコンよりも施設の老朽化ということで、トイレの要望などのほうが多く寄せられていたのが実情です。

○藤本委員 昔から学校にはエアコンはないものという意識はありましたね。ただ、限度を超えているといえますか、教室でも40度近い気温になっているという話を聞きます。

○谷垣教育長 今年は特にそうですね。

○藤本委員 先ほどの教育委員会でも、話が出ていたのが、少子化のせいで幼稚園が極めて人数が少なくなっており、ここ数年の統計を見せていただいても、毎年50名ほど幼稚園児の数が減ってきているという現状があります。このままでは、市の税金の使い方にしても、費用対効果の面から考えてみても、難しいことになっているのではないかと思います。いろいろな施策を進めていただいていると思うのですが、やはり公教育の中に幼稚園というものを維持していくのであれば、何らかの手だてを加えていく必要があります。幼稚園に通っていただいている方の中にも、不安が出てきておりますので、公的な資金を使ってできる幼稚園教育を包み込めるような何らかの手だてを見つけていただきたいというのを申し上げていたところでした。

○上田市長 来年の10月には、幼児教育無償化がほぼ決まっていますので、幼稚園は危機感を持っています。

私立幼稚園に保育時間などで差をつけられて、無償になったら、そちらへ行く人が増えるし、保育園や認定こども園を選ぶ人もいる。様々なシミュレーションをする必要があります。

○藤本委員 幼稚園に訪問させていただいていますので、現状を見させていただくと、先生方は本当に頑張っているというので、市としてどういう施策を講じながら進んでいくのかということを検討する時期じゃないかなと思っています。

さて、「こどもの学び」アイデアサポート事業が、考えていた以上に大変いい効果をもたらしているということが多々あるようでございます。学校の特色づくりになっていたり、先生方は自分たちで考え出したことなので、大変積極的に前向きに進めていらっしゃる現状を見ると、ぜひとも、来年も進めていただけたらなと思っています。

あと、ITで各校が連携をしながら授業をするということですが、自分たちが思っていることを情報発信して、相手に伝えるということは、これからの時代を生きていく子供たちにとっては大事なことです。そういう部分でも活用していただけることは大変ありがたいなと思います。

○谷垣教育長 「こどもの学び」アイデアサポート事業では、去年、寺子屋という名称で、書道を、公民館の書道クラブの人に教えていただきました。

あと、ITに関しては、始まったばかりでどんな効果が出るかわからないんですけど、郡山東中学校と平和小学校、それから治道小学校でスカイプを使って、中学校の授業を小学校で一緒に受けられるようなことを実施しています。主に英語の授業ですね。

他にも、郡山西中学校と矢田小学校、矢田南小学校と一緒にグループを組んで、同じくスカイプを使って、子供同士がそれを通して会議をするような、小規模化している学校同士が、より多くの子供たちとコミュニケーションといいますか、議論をする場が必要だと思います。ITを使って、今年度後半、試行的にですけど、広がっていくと考えています。

○藤本委員 小規模校は、そういうITを学習面に活用していくことは大事かなと思います。

○事務局 ありがとうございます。

ほかに何かございませんでしょうか。

それでは、続きまして、次第5の「学校・園の現状について」を事務局より説明させ

ていただきます。

○事務局 まず市内の幼稚園の状況です。

支援の必要な子供が非常に増えているということで、今年度から加配教員を定数よりもプラス1名、各園増員配置させていただきまして、様々な教育活動の支援にあたりしております。保護者、現場の先生方からは、この加配教員、非常に機能していて、ありがたいというような意見をいただいております。

ただ、先ほど御意見がありましたように、今年度、入園受付を行いました結果、数字にも顕著にあらわれてきているのが、就園率です。地域の子供たちが幼稚園へ就園する率が少ないところでは17%、多いところで40%ということで、かなり地域差があるんですが、地域の幼稚園に行く子供が非常に減っているというような状況です。そういったことも含めて、教育や保育のあり方を見直す必要があると強く感じているところでございます。

小学校におきましては、再来年度から導入される新学習指導要領に向けて、特に英語教育の充実のために、県教育委員会の支援を受けて研修体制を新たに構築した取り組みを進めております。そんな中で、先ほどありましたように、「こどもの学び」アイデアサポート事業を活用いただいて、今現在、中学校の英語教員が小学校へ出向いて、授業をしているという所が3校ほどあるんですが、それをITを使って広げられないかということで研究を進めているところでございます。

中学校につきましては、これは御存じのように、先月、深夜のオートバイ事故によって死亡事故が発生してしまうというような、大変残念な事象が発生しております。ここ数年、市内の中学校は非常に落ちついた状況のもと、子供たちの教育活動に打ち込んでいただいただけに残念であります。同様の事案が発生しないように、各校に取り組みを進めていただいているところでございます。

また、小・中学校において、パソコンのリプレイスであったり、中学校のエアコンを設置いただくということなど、教育環境を快適にしていく中で、教育活動がより進められるように支援していただいているところでございます。

それから、資料としてお配りさせていただきましたのが、今年度、教育委員会のほうで作成させていただきました不登校の子供を担当する先生のための支援ガイドブックであります。本市の不登校の出現率は、10年前に比べると改善が見られています。平成28年度では、全国、奈良県の出現率を下回る結果となっております。しかし、昨年

度と今年度については、若干不登校の出現率の上昇が見られて、1学期終了時点では不登校の予備群と言われる1学期10日以上欠席者についても、同様の数となっています。人間関係の複雑化や家庭環境等、理由は多岐にわたっておりますが、不登校及び長期欠席者に見られる特徴は、やはり自己肯定感や自己受容感の低さにあるように思われます。

様々な背景があるわけですが、子供たちに、またそういった不登校を抱える保護者の方に、よりよい支援をしていくために、先生方にこのガイドブックを活用していただいて指導にあたっていただき、頑張っているところがございます。

○事務局 ありがとうございます。

今の説明に関しまして、御意見、御質問がございましたらお願いいたします。

○上田市長 最近、障害を持っている子供の兄弟に対する心のケアの大切さを訴える活動をしている人がいます。例えば、弟に障害がある場合、母親や父親が弟に掛かりつきりになり、その兄や姉が疎外感を感じ続け、小さいころから私はなぜ嫌われてるのか、そればかり考えているというようなことがあるそうです。その心のケアをするためのNPO法人などもあるそうですが、心の問題というのは、本当にいろんな角度から見ないとはいけませんね。

○福本委員 小学校で道徳の教科が始まって半年たちました。心のケアにどこまで踏み込んでいけるかはわからないのですが、今後どのような形で道徳というものを小学校で取り入れてしっかりと学んでいくか。来年度から中学校が追随して、教科書が選定されて始まっていきますが、ますます道徳の教科化に向けて、いろんな形の取り組みが必要になってくるという気がするんです。

また、心のケアに、家庭の環境が原因で勉強がしにくい子供のフォローをうまくミックスできればという気はします。学校訪問させていただくと、生活保護であったり、ひとり親であったり、様々な家庭環境の子が結構おられます。家庭環境づくりと心のケア、教科としての道徳というものをどう捉えていくか、この辺りをうまく組み合わせることができれば、何か芽が出るんじゃないかなという気がするんです。

○谷垣教育長 小学校道徳は、先生方から何か声を聞いていますか。

○事務局 特にまだ声は聞いていないですけど、やはり教科化になってから、各校の先生方の道徳教育に向けるエネルギーは、かなり高くなってきています。かなり研究を進められていますが、道徳は、すぐには結果が出づらいなと感じています。将来的に

郡山の子供たちがいい形で変わっていくのではと期待はしています。

○藤本委員 今の小学校や幼稚園にいる子供たちの10年先、20年先は、どうなっているのかなといつも思うんです。私たちが生きてきた時代とは違って、人間がしてきた部分をコンピューターがしてくれるという時代が来る、その時に大人になっている子供たちを、今、育てているということですよ。だから、一番人間の基礎的なところを育てる道徳というものは、しっかりと育てていきたいです。

今までの時代というのは、確実に基礎的な力をつけて、情報をしっかりと処理していきける力をつけることが大事だったそうですけれど、これからの時代というのは、正解が1つではない時代に突入していくので、子供たち自身には小学校、幼稚園の時代に基本的なことをしっかりと身に付けさせるという、その位置づけが一番大事なことだと思います。それと、自分自身でしっかりと考える思考力、そして判断する力、表現する力というようなものに視点を置きながら、これからの10年先、20年先に有用な人材といいますか、しっかりとした子供たちをどう育てていくのかということが、今、問われていると思うんです。

自分も教育という現場にいて、すごく思ったことは、教育の現場は、ある意味、社会の目というのがなかなか届きにくいところにあるような気がしています。教員を続けておられると、どうしてもそれまでの経験のみを大事にして進んでしまいがちです。奈良県のほうでは、教職員大学のほうに行きやすくなっているそうですね。2年間の内の1年間は、教育研究所とかに行けるようにしているので、費用自体も1年だけ自分で出されているということらしいです。理想的なことを言ってるように思うんですけれど、やっぱり一番大事なことは、先生方自身が学び続けることができる環境で、先のことを考えながら進んでいただけるような先生になっていっていただかないと、子供たち自身に力がつかないかなと。

先のことを考えると、子供の数は減るし、でも、やるべきことはやらなきゃいけないし、そういう世界に生きていくための子供をどう育てていくのかという部分を御相談していただきながら支援していただけるような市であればと思います。

○事務局 ありがとうございます。

次第5につきましては、よろしいでしょうか。

それでは、次第6の「その他」について何かございますか。

○谷垣教育長 以前に研修をした時に、慶應大学の方に講演に来ていただいて、お話を聞

いたのですが、今、子供たちの間で気をつけなければならない動画アプリとネットでの対戦型のゲームアプリがあるそうです。

ゲーム上のことであればいいんだけど、次の日に学校でけんかになったり、いじめになったりということがあり、気をつけなければいけないという話でした。

○福本委員 大人は、ほとんど気がついてないんでしょうね。

○谷垣教育長 子供の住む世界と大人の住む世界が違うのか、気づいてない大人も多いと思います。

○牧浦委員 動画アプリはどのようなものなんですか。

○谷垣教育長 子供たちが、いろんなパフォーマンスをしたり、踊っているところなどを15秒間流せるんです。

○牧浦委員 顔が全部出てるということですか。

○谷垣教育長 出ています。そのことに対して無抵抗というかね、危機感を持ってないところが、怖いという話でした。

動画がアップされると、ちょっとしたことで、学校名や名前が特定されることがあるんです。

○藤本委員 今の子供たちはそういう世界で生きているわけですね。

○谷垣教育長 マイナスの面を知らせることが大切です。

○事務局 その他、報告などはございませんか。

以上をもちまして、本日の会議事項は全て終了いたしました。

貴重な御意見、ありがとうございました。

それでは、閉会いたします。本日は、どうもありがとうございました。